

大震災・乗り越えられる日を信じて

(株)ジェイエイあぐりすかがわ岩瀬 企画管理部 マネージャー 澤山聖美

3月11日14時46分、東日本大震災が私たちの生活を大きく変えました。福島県須賀川市は震度6強という、今までに経験したことのない強い地震により、JAすかがわ岩瀬本店や市役所庁舎を含む多くの建物が倒壊し、農業用貯水池「藤沼湖」は決壊、道路や田畑なども大きな被害をうけました。水道・ガス・電気・物流がストップし、食べ物もガソリンも手に入らない。目の前の現実が、まるで映画の中の出来事のようにも思えました。震災後、しばらくは農産物販売所を休業する覚悟を決めていたのですが、「食べ物を買えなくて困っている人が大勢いるから、営業を再開して欲しい」という生産者の声に背中を押され、震災から5日目に、営業を再開しました。私たちの心配とは裏腹に、店内には山のように農産物や加工品が並びました。避難所や病院、老人福祉施設などにも、たくさんの農産物を届けることができ、「地産地消」の強みを痛感した瞬間でした。

続く余震に震えながら無我夢中で過ごす日々、「家も大変だけど、人は一人では生きられない。困った時は助け合わないと…」と、目に涙を浮かべながら、少ないガソリンで自宅とお店を何往復もする生産者の姿に、私たちは励まされました。「震災なんて、きっとすぐに乗り越えられる！」本気でそう思えました。しかしそれから間もなく、東京電力福島第一原発の事故により状況は一変しました。出荷制限により店内の販売台から地場農産物が消え、農作業にもストップがかかりました。

生産者を励まそうと、畑に行った時のことです。「毎年いろいろあった。電害とか台風とか水不足とか。でもそれを何年も乗り越えてきたから、だから負けるわけにはいかない。」不安な表情を浮かべながら口にした生産者の言葉にハッとしました。出荷制限が解除され、農作業が再開されてからも、誰かを恨む訳でもなく、次の季節に向けて黙々と種を蒔き続ける生産者たち。励ますつもりが、逆に励まされてばかりです。農業を通して、生きていくうえで大切なことを、知らず知らずのうちに教えられているような気がしてなりません。

“生産者と消費者のかけ渡しを”と頑張ってきた8年間。震災によってまた振り出しに戻ってしまったけれど、ゼロからのスタートではありません。消費者や生産者、地域が、私たちを支えてくれています。同じ目標を持つJAファーマーズマーケットの大切な仲間もいます。今のこの苦しみも、皆さんの応援や、人のあたたかさも、すべて心に刻みながら、一歩ずつ前に進んで行きたいと思います。

今まで何も考えず、あたりまえだと思っていたことが、どれだけ幸せなことなのか、そして、何が一番大切なことなのかを改めて考えさせられた大震災。贅沢などしなくてもいい、一日も早く普通の生活を取り戻し、一人でも多くの方が笑顔になれることを願います。

「みんなと一緒にならきっと大丈夫！」人と人とのつながりが、一番の勇気の源です。

(さわやま きよみ)